

給食

青木 裕次

私が以前勤めていた定時制高校では、夜間に勉強する生徒達の為に希望者には夕食の給食があり、半数以上の生徒達が利用していました。夜の九時過ぎまで勤務する単身赴任の私も、生徒達と一緒に学校の給食で夕食を摂りました。生徒達と一緒に食べるのは良いのですが、ホームルーム開始のチャイムが鳴っても、友達とおしゃべりをしながら悠々と食事をしている生徒達がいるのです。先生方が、チャイムが鳴ったから早くしなさいと注意をするとしぶしぶと席を立つ生徒はまだ良い方で、数名の女生徒は一向に急ぐ様子もなく一校時が始まってから教室に行くという塩梅でした。一週間ほど様子を見ていたのですが、先生方に注意されても改まる様子がない女生徒達を、ついに私が注意することとなりました。注意を無視してホームルーム開始のチャイムが鳴っても、おしゃべりしながら食事をしている彼女達のそばに行き、まずは低い声で注意しました。しかし不遜な態度で私の方をちらりと見ただけで、食事とおしゃべりを止めようとはしませんでした。私はそんな彼女らの態度に対応して腹のそこからの大声で「食事をやめてすぐホームルームに行け」と怒鳴りました。彼女達は吃驚して食事をやめ、ふて腐れたように立ち上がると自分達が使った食器をそのままにして食堂を出て行こうとしたのです。私は彼女達を呼び止め食器をきちんと片付けるように言ったのですが、その注意を聞かずに廊下に出ようとしていました。彼女達の前に私は立ちはだかり、怒鳴りながら食器を片付けるよう指示しました。それでも彼女達は私の横をすり抜けて行こうとするのです。私は食堂のドアを手早く閉めてその前に立ちました。彼女達は「そこをどけ」などと生徒にあるまじき暴言を吐きながら私を睨み返すのです。私は更に腹に力を入れ、食べ残しの食器があるテーブルを指差し「片付けるんだ」と怒鳴りました。

彼女達は、さすがに私を押し退けてまでは食堂を出て行けずに、舌打ちなどをしながら食器がそのままになっているテーブルに戻ると、手荒く食器を持って返納口に行きました。その日のメニューはカレーだったのですが、彼女達はプラスチックの皿を残飯入りに叩き付けるようにして残ったカレーライス捨てたのです。私はそこでもう一発「静かに片付けろ。食器に八つ当たりするな」と大声で言った後に「明日から気を付けるんだ」と最後の釘を刺しました。その出来事の一部始終が生徒達の間にも広まったようで、次の日からホームルーム開始のチャイムが鳴る前に生徒達はそそくさと食堂から引き上げて行くようになりました。そんな生徒達が愛おしく思われました。

こんなこともありました。給食費を三ヶ月滞納している生徒がいたのです。私は悩みましたが、その生徒の給食を打ち切ることになりました。それを言い渡すのは校長の私の役目です。次の日、私はその生徒を校長室に呼び心を鬼にして給食の打ち切りを言いました。その後で励ましの言葉を添えたのは覚えているのですが、どんな言葉だったのか思い出せません。ただ強く心に残っているのは、肩を落として私の話を聞くその生徒の姿と、生徒が帰った後で私の目から出た一滴の涙です。そのことを思い出すと今でも胸の底がきりきりと痛みます。

六月二十七日の新聞に、教材費未納の生徒二人を卒業式に出席させなかつた宮城県の高校のことが報じられていました。しかし未納のままでも卒業は認められたとのこと。その記事には「一般論として式に出席できない事態は回避すべきだ」（ママ）との県教委のコメントが記されていました。一般論で通用しない様々なことがあるのも教育現場なのだと思います。（元青森県立北斗高校校長）